

# PLAYS 4000

この度はシマノ BeastMaster1000をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
本製品の機能を十分に引き出し、末永くご愛用いただくためにも、使用前にこの取扱説明書をお読みください。  
なお、取扱説明書の内容は予告なく更新させていただくことがあります。最新版はWEB版をご参照ください。

安全上のご注意	2	高切れの補正	34
特長	8	S A-RB	35
デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作	9	船べり自動停止	35
MENU(メニュー)ボタンの操作	10	アラーム(船べり)	36
各部の名称	11	棚アラーム	37
電源とケーブルについて	12	棚または底の水深をメモリーする方法	38
学習方法	14	2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード	39
学習モード一覧	15	上からモードの実釣編	40
1. 「下巻きをしない」かつ「これから糸巻きをする場合」PEライン学習(L1)	16	底からモードの実釣編	41
2. 「下巻きをしない」かつ「これから糸巻きをする場合」ナイロン・フロロ学習(L1)	18	さそい「3段シャクリ」の再現	42
3. 「下巻きをする」かつ「これから糸巻きをする場合」下巻学習(L2)	20	お取り扱い上の注意	44
4. 「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)」かつ 「これから糸巻きをする場合」下巻き学習(L2)	24	仕様	48
5. 「引」出学習をする場合」かつ「すでに糸巻きが完了している場合」引出学習(P1)	28	故障かな?と思われるときは	49
色々なテクニック	31	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	51
0(ゼロ)セットの設定	32	サービスネット	52

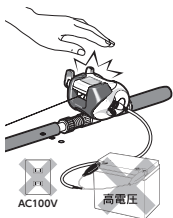
## ご使用前に必ずお読みください。

### 警告



#### 高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧（DC12～16.8V）以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながらないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。



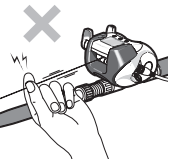
### 警告

- リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノのバッテリーをご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。



#### 巻き込み注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



### 警告



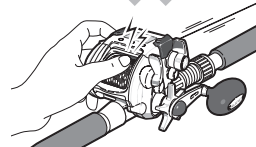
### 警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を上げてご使用ください。





#### 回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



### 警告

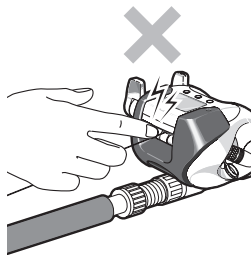
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（または）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

## 警告



### 指をはさまれない よう注意

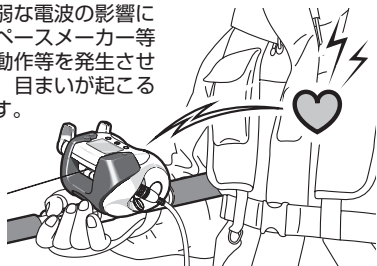
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させて使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



### 警告

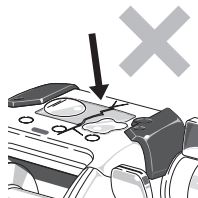


## 警告



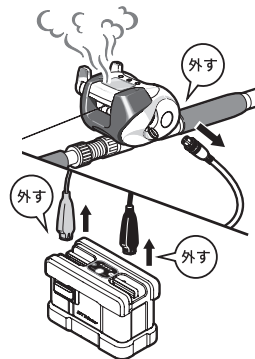
### 警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。



### 警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口リップを外してください。

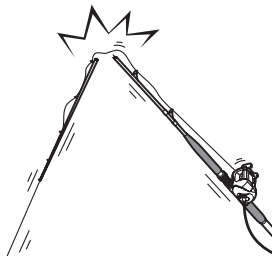
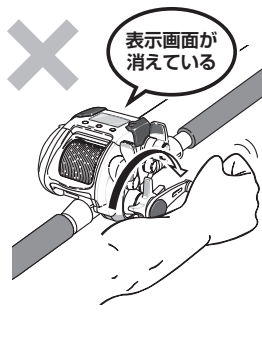


## ⚠ 注意



### 注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。(※ラインとカウント表示に誤差が発生します。)そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



## ⚠ 注意





### 注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



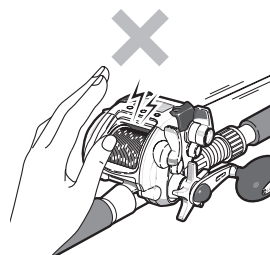
### 注意

- バッテリーマーク (  または  ) が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用ください。



### 回転物注意

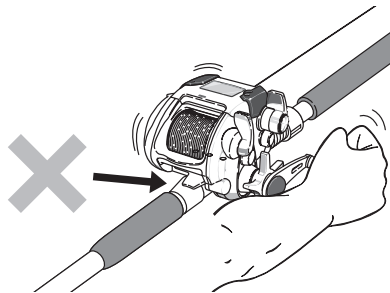
- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。



## ⚠ 注意

### ⚠ 注意

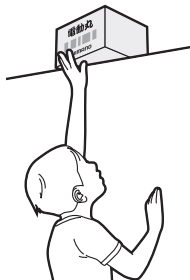
- 電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。



## ⚠ 注意

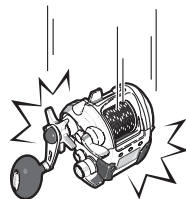
### ⚠ 注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



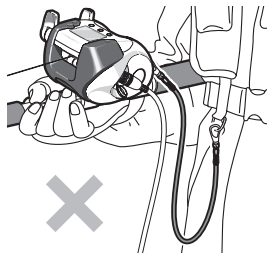
### ⚠ 注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



### ⚠ 注意

- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。

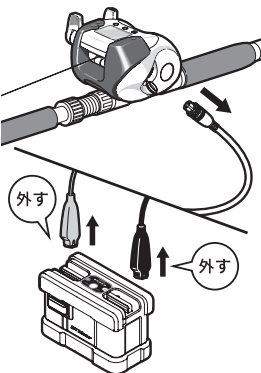


## ⚠ 注意



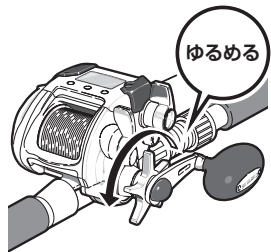
### 注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



### 注意

- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。

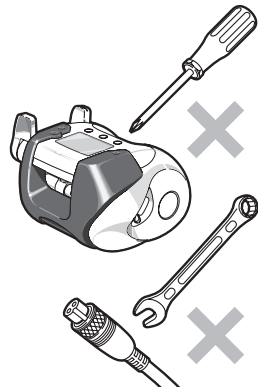


## ⚠ 注意



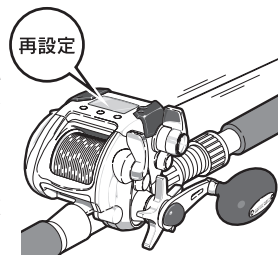
### 分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



### 注意

- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。

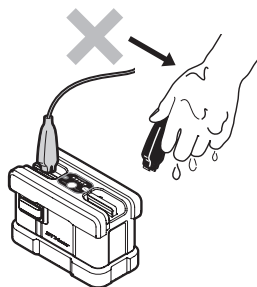


## ⚠ 注意



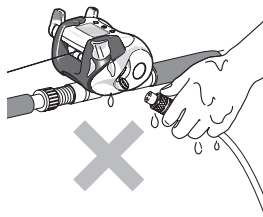
### 注意

- 濡れた手でケーブルのワニ口クリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



### 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



### 注意

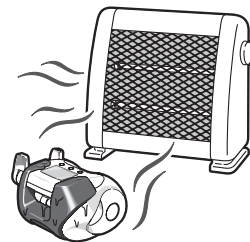
- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

## ⚠ 注意



### 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



### モーターの誤作動についてのご注意

- 落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起り内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せください。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC12～16.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。

# 特長



シールドタイプ  
S A-RB

錆、塩害に強いボールベアリング…

**シールドタイプS A-RB内蔵** …………… P35参照

従来のA-RB(アンチラストベアリング)の側面に防錆素材でシールドし、塩分の浸入を減少させた S A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現!

A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩害”をも減少させています。



ハイスピード  
ハイパワー

さらに磨きのかかった…

**ハイスピード&ハイパワーを装備**



0セット

より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

**0(ゼロ)セット** …………… P32~33参照

シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



船べり停止

竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

**船べり自動停止** …………… P35~36参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



高切れセット

高切れをワンタッチで修正する…

**高切れ補正** …………… P34参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



テクニカル  
レバー

レバー操作で巻き上げ速度の調整…

**テクニカルレバー** …………… P9・11参照



メモモ

メモリーした水深をメモ欄に表示…

**メモモ** …………… P38参照

棚または底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置を0とした水深をメモ欄に表示します。



上・底から

メモ水深の表示方法を選択できる…

**「上からモード」「底からモード」切り替え**

…………… P39~41参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。

上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。



糸送り機能

より速くシカケを落とす…

**糸送り機能** …………… P9~10・31参照



さそい

名人のイカのさそいをリールが再現…

**さそい「3段シャクリ」再現** …………… P42~43参照

電動リールにあらかじめ入力されている「3段シャクリ」が再現できます。



# デジタルカウンター各部の名称・メニュー画面の操作

## ◎現在の水深

水面からの水深を表示します。  
 (底からモード時は底からの水深を表示します。)  
 ※水深は10cm単位です。(100m以上は  
 下図のように1m単位になります。)

999→100

## ◎底からモード

底からモード時は左側に▶が  
 点灯します。▶の点灯がない時は  
 上からモードです。

## ◎メモリーした水深

## ◎テクニカルレバーの設定値

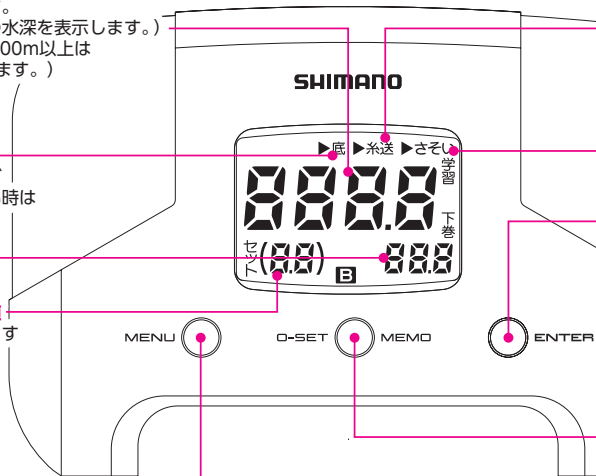
巻上げスピードを表示します  
 (31段変速)。

## ◎各種表示

学習・下巻:各学習モード時に点灯します。  
 底(下段):底からモード時に点灯します。  
 セット:糸巻学習、0セット等の受け付け時に  
 2秒間点灯します。

**B**:バッテリーが不足、または電源電圧が  
 降下したときに点灯します。

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。



## ◎自動糸送り機能

シカケをおろす時、船べり停止位置  
 プラス5mで自動的にモーターが空転し、  
 スプールが糸の出る方向に回転しやすく  
 なります。機能がオフの時は左側の▶が  
 消灯します。(例:船べり停止位置が  
 1mの場合は6mでONになります。)

## ◎さそいモード

さそいモード時は左側に▶が点灯します。

## ■ENTER(決定)ボタン



現在の水面からの水深を  
 メモリーします。  
 底からモードの時には  
 同時に「◎現在の水深」が  
 0.0になり、底からの  
 カウントが変わります。

## ■O-SET(0セット)/MEMO(メモ)ボタン



MENU(メニュー)ボタンで点滅  
 表示にした項目のオン/オフ  
 に使用します。

## ■MENU(メニュー)



押すごとに底・糸送の表示が順に点滅になり、  
 さらに押すと標準画面に戻ります。  
 ENTER(決定)ボタンと合わせて使用します。



0セットします。  
 シカケを水面に合わせて  
 0セットしてください。

# MENU (メニュー) ボタンの操作

## MENU (メニュー) ボタンの操作

底からモード、自動糸送り機能、さそいモードをオン/オフしたい場合に操作します。

押すごとに底・糸送・さそいの表示が順に点滅になり、さらに押すと標準画面に戻ります。変更したい機能が点滅の時にENTER (決定) ボタンを押せば、オン/オフが切り替わった後、標準画面に戻ります。

本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…

指し示されたボタンを**3秒未満**押ししてください。

指し示されたボタンを**3秒以上**押ししてください。

ご注意：本文の説明中にでてくるカウンター内の数値・設定などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。



### 標準モード

現在の機能の状態を表しています。左側に▶が点灯している機能は現在オンになっています。図の場合、底からモード、さそいモードはオフ、自動糸送り機能はオンになっています。



実際に釣る場合に使用するモードです。電源ON時はこの状態です。

MENU(メニュー) ボタンを押した場合標準モードに戻ります



モータ停止の状態では機能選択画面へ

MENU(メニュー) ボタンを押した場合

### 選択画面-3 [さそいモード]



変更しない時はMENU(メニュー) ボタンを押して次へ



現状を変更したい場合ENTER(決定) ボタンを押す



MENU(メニュー) ボタンを押した場合

変更しない時はMENU(メニュー) ボタンを押して次へ



### 選択画面-2 [自動糸送り機能]



現状を変更したい場合ENTER(決定) ボタンを押す



MENU(メニュー) ボタンを押した場合

変更しない時はMENU(メニュー) ボタンを押して次へ



### 選択画面-1 [底からモード]



現状を変更したい場合ENTER(決定) ボタンを押す



図はさそいモードがオンに変更された場合です。オフにしたい時は再度同様の操作を行います。



設定が変更されます

図は糸送りが解除された場合です。作動させたい時は再度同様の操作を行います。



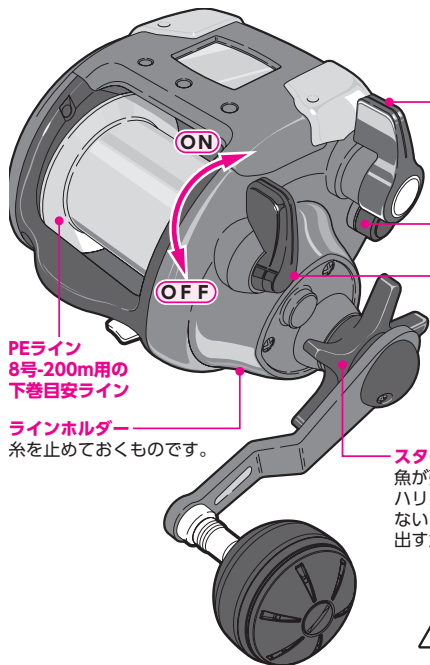
設定が変更されます

図は底からモードがオンに変更された場合です。オフにしたい時は再度同様の操作を行います。



設定が変更されます

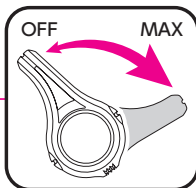
# 各部の名称



PEライン  
8号-200m用の  
下巻目安ライン

ラインホルダー  
糸を止めておくものです。

スタードラグ  
魚が強く引いた時、  
ハリス切れをおこさ  
ないように糸を送り  
出す力を調整します。



## テクニカルレバー

巻き上げスピードを瞬時に調整することができます。

※船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためレバーを動かしての巻き上げはできないようになっております。



## スプールコントロールツマミ

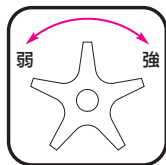
スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

## クラッチ

ハンドル正転または手で戻すとONになります。

ON：シカケの巻き上げ

OFF：スプールをフリーにしてシカケをおろします。



## デジタルカウンター



## レベルwind

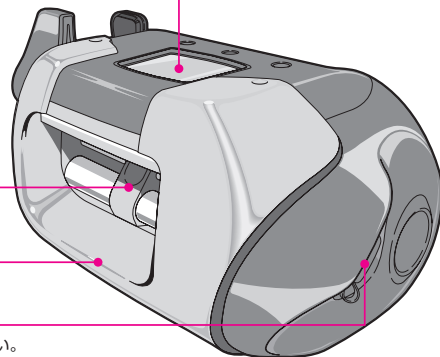
※巻き上げ時に指をはさまないよう  
注意してください。

## セーフティレベルwindカバー

(カウンター部も保護します。)

## 電源コネクター

※使用時は防水キャップを外して下さい。



# 電源とケーブルについて

## 1 お取り扱い上の注意

### 電源について

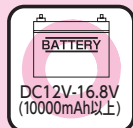
電源は公称電圧が12Vから16.8V(リチウムイオンバッテリーなど)までのものをご使用ください。リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノ・リチウムイオンバッテリーをご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。指定外の電源(たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など)ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないでください。

- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流(DC)12Vから16.8Vであることをご確認ください。(船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。)また、端子がサビでいたり、電圧が安定しておらずと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。

### ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2~3年で交換することをお勧めします。

ご注意：純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。電源ケーブルのワニ口クリップ部はモーターの負荷によって大電流が流れると発熱する場合があります。電源端子(バッテリー端子)とワニ口をしっかり挟み込んで使用してください。本製品のケーブルは2芯タイプとなっています。6芯タイプのケーブルは使用できません。釣行時には持参するケーブルのご確認をお願いします。



本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。ご使用になる際は弊社、バッテリーをご使用になるようお願いいたします。

## 2 バッテリーとの接続方法

- 1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。

赤クリップを(+)側に、黒クリップを(-)側につないでください。

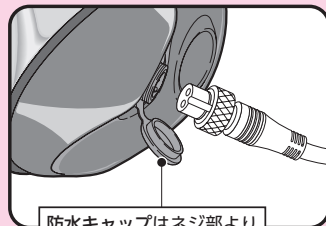
※(+)側、(-)側を逆に接続した場合、リールが破損する場合があります。

- 2 リールとケーブルを接続してください。

ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。

※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。

※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。



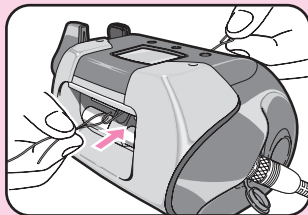
防水キャップはネジ部より外さないでください。



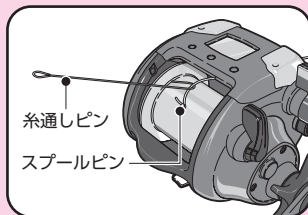
## 学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

### 糸をセットします。

- 1** 糸をレベルウィンドに通します。  
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



- 2** スプールピンに糸を結んでください。



### 学習方法の選択

まず次ページの操作で水深画面から学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

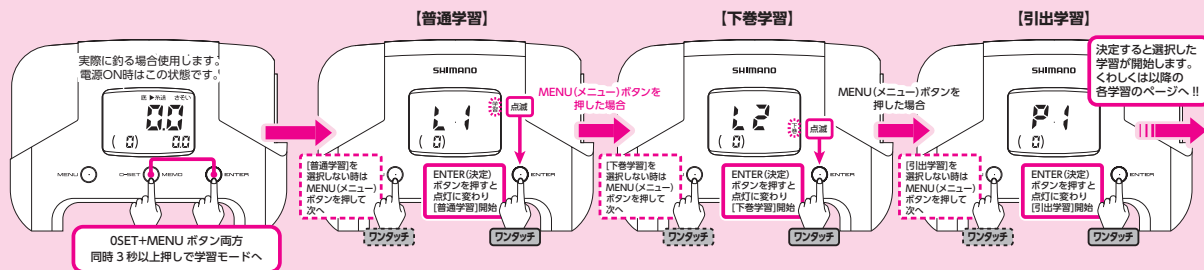
- ※電源をつないでないとこの操作は行えません。
- ※カウント値が6m以下で操作してください。  
6.1m以上の時はいったん0セットしてください。

ご注意：  
不足した電圧 **B** で学習されると途中で液晶が消える場合があります。  
この場合、学習は始めからやり直してください。

# 学習モード一覧

## 水深画面

## 学習モード

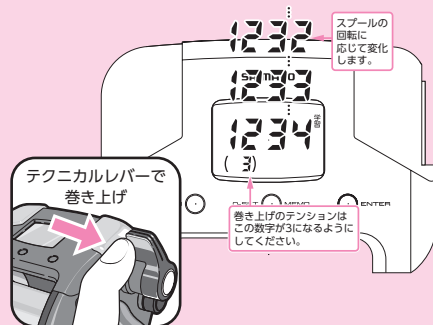
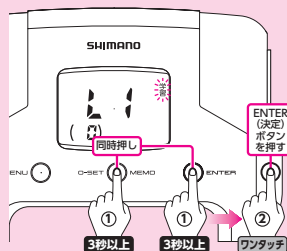
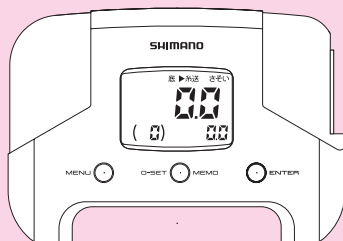


	下巻をしない場合	下巻をする場合	下巻を完了している場合 (ラインを巻き替える場合)	フロロ/ナイロンを巻く場合	引出学習をする場合
これから糸巻きをする場合	① L1 ... P16へ	③ L2 ... P20へ	④ L2 ... P24へ	② L1 ... P18へ	
すでに糸巻きが完了している場合					⑤ P1 ... P28へ

## 学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



### 1 「下巻きをしない」かつ「これから糸巻きをする場合」 PEライン学習(L1)



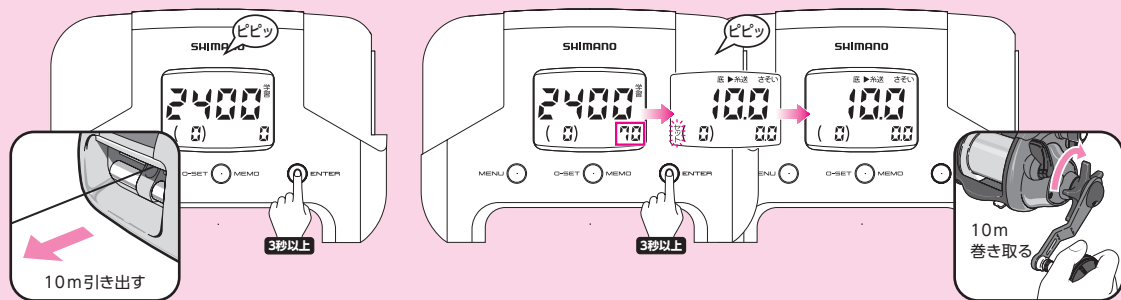
- 1** カウント値が6m以下で操作します。  
6.1m以上の時は0セット(P32~33参照)しておきます。  
クラッチレバーをONにしてください。  
そして、電源の接続を確認してください。  
デジタル表示は図のようになります。  
(標準モードの状態です。)

- 2** ENTER (決定) ボタン、MEMO (メモ) ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。  
「学習」(普通学習)が点滅します。  
ENTER (決定) ボタン を押し、普通学習を決定します。  
「学習」が点灯に変わります。  
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくはP15「学習方法の選択」をご参照ください。)

- 3** テクニカルレバーで糸を巻いてください。  
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。  
巻き上げのテンションは( )内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。  
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。



注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終わったら、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。  
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。  
糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカースの数字で確認します。)

#### 10m引き出しのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカース表示がある場合は、マーカースを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカース表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

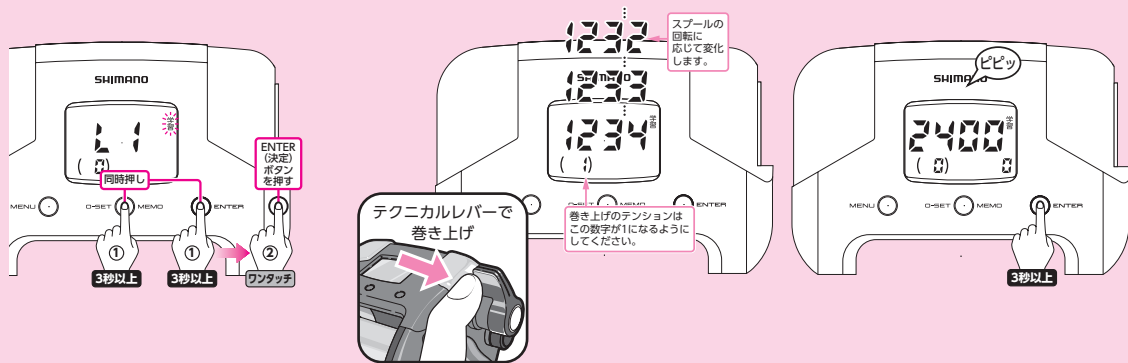
- 5** スプールの回転数に比例した数字が画面右下に表示されます。(□部分)  
学習を終了するため、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。  
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。  
※各入力途中で MENU(メニュー)ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。  
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)  
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

- 7** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

## 学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

### 2 「下巻きをしない」かつ「これから糸巻きをする場合」 ナイロン・フロロ学習(L1)

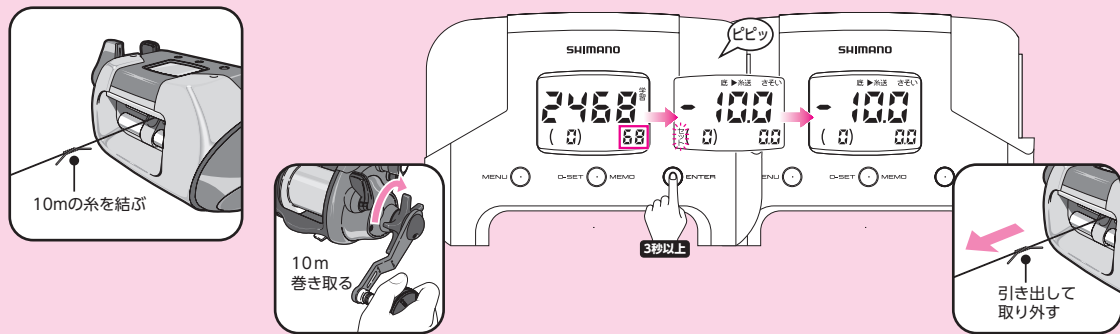


- 1 カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット(P32~33参照)しておきます。クラッチレバーをONにしてください。そして、電源の接続を確認してください。ENTER (決定) ボタン、MEMO (メモ) ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。「学習」(普通学習)が点滅します。「学習」(普通学習)が点滅します。「学習」(普通学習)が点滅します。ENTER (決定) ボタンを押して、普通学習を決定します。「学習」が点灯に変わります。(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくはP15「学習方法の選択」をご参照ください。)

- 2 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは( )内の数字が1になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

- 3 糸を完全に巻き終えたら、ENTER (決定) ボタンを3秒以上押ししてください。「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



**4** 巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。

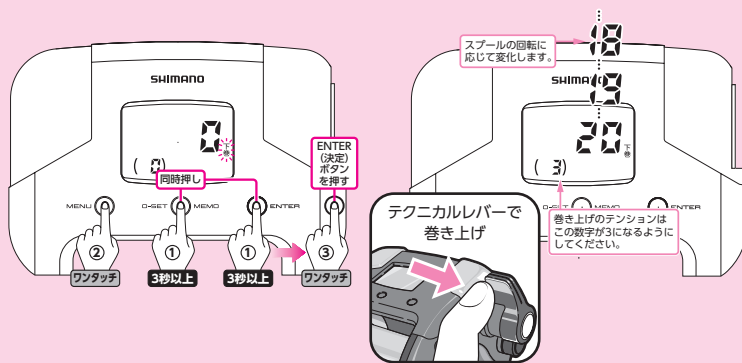
**5** 結びつけた糸を手巻きで巻き取ります。スプールの回転数に比例した数字が画面右下に表示されます。(□部分) 学習を終了するため、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。「ビピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。  
※各入力途中でMENU(メニュー)ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

**6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります) ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

**7** 結びつけた糸を引き出して、取りはずしてください。

ご注意：ナイロンラインは、巻き上げ繰り返しのテンション変化にて誤差が3%以上生じる可能性があります。

## 3 「下巻きをする」かつ「これから糸巻きをする場合」 下巻学習(L2)



**1** カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット(P32～33参照)しておきます。ENTER(決定)ボタン、MEMO(メモ)ボタンを両方同時に3秒以上押して学習モードに入り、MENU(メニュー)ボタンを押してください。「下巻」(下巻学習)が点滅し、表示は図のようになります。

ENTER(決定)ボタンを押し、下巻学習を決定します。

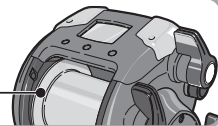
「下巻」が点灯に変わります。(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくはP15「学習方法の選択」をご参照ください。)

**2** 右の要領でそれぞれ下巻を行います。テクニカルレバーで糸を巻いてください。巻き上げのテンションは( )内の数字が3になるようにしてください。

テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

下巻ラインを使用する場合

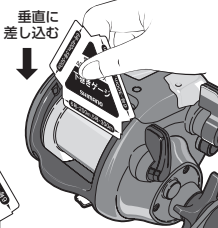
スプールの下巻ラインまで下巻します。



下巻ラインゲージを使用する場合

垂直に差し込む

号数マークをスプール外周に合わせる

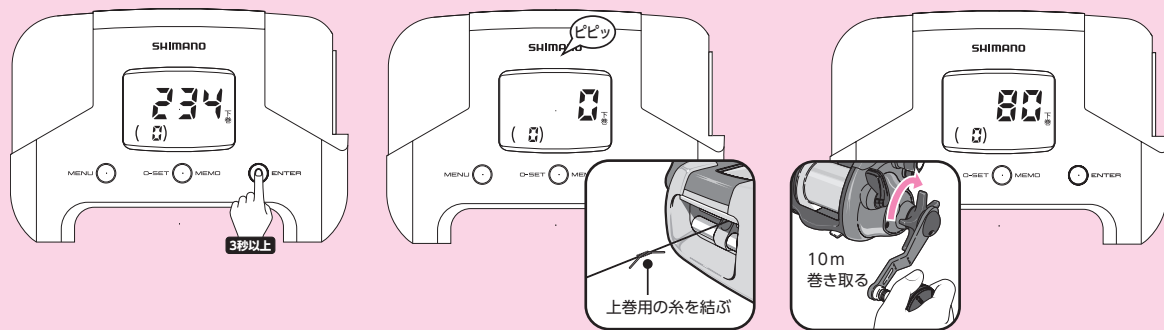


### ゲージの使用法

上図のようにゲージをスプールに垂直に差し込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。スプールとゲージの間にできたすき間(図の斜線部)が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。

※ゲージは小箱に付いております。切り取ってご使用ください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



**3** 下巻を完全に終わったら、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押ししてください。

**4** 「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。巻き終わった下巻糸に上巻用の糸を結びます。

**5** 上巻糸を正確に10m分手巻きで巻き取ります。スプールの回転数に比例した数字が表示されず。

#### 10m巻き取りのご注意

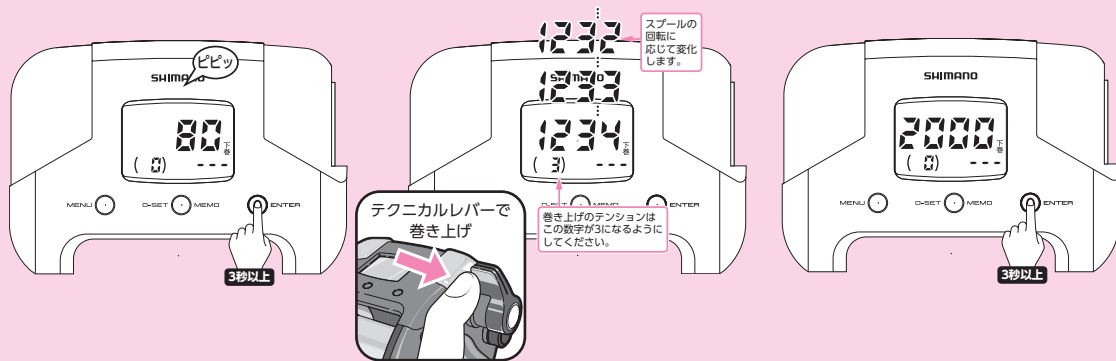
表示中の数字「10」=10mではありません。

■ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。

■ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく

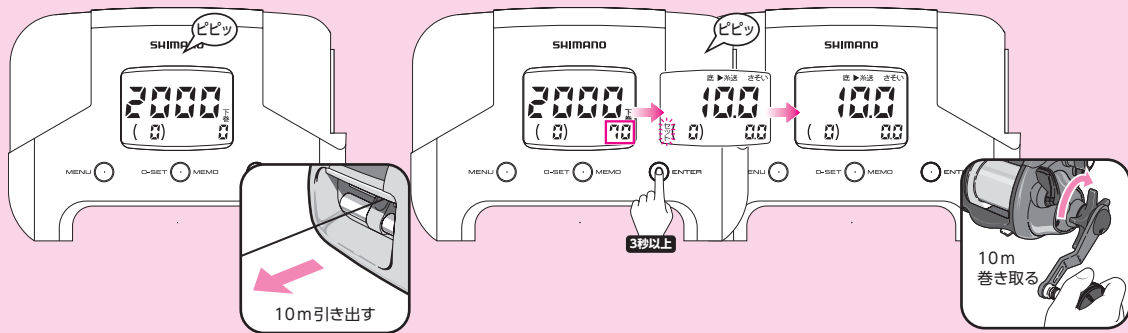
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



**6** ENTER (決定) ボタンを3秒以上押しください。  
「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

**7** 残りの上巻糸を巻き上げます。  
テクニカルレバーで糸を巻いてください。  
巻き上げのテンションは ( ) 内の数字が3になるようにしてください。  
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

**8** 糸を完全に巻き終えたら学習を終了するため、ENTER (決定) ボタンを3秒以上押しください。



- 9** 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。  
糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。)

#### 10m引き出しのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

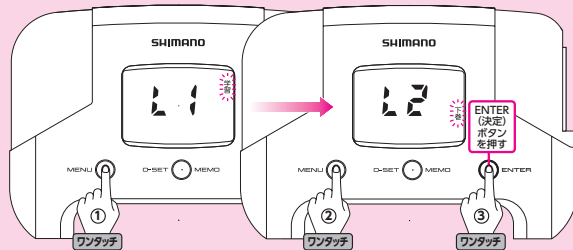
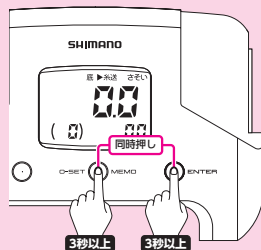
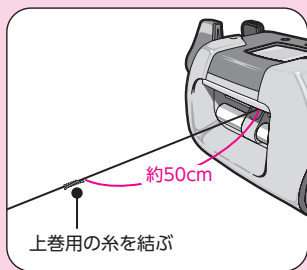
- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

- 10** スプールの回転数に比例した数字が画面右下に表示されます。(□部分)  
学習を終了するため、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。

- 11** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。  
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)  
※誤差とは学習後1投目の誤差です。

- 12** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

## 4 「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)」かつ「これから糸巻きをする場合」 下巻き学習(L2)



- 1** 巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

※下巻き糸に上巻き用の糸を結び際、下巻き糸をレベルウィンドの穴に通し、下巻き糸を約50cm糸を引き出して上巻き用の糸を結んでください。

下巻き糸を約50cm出した状態で、糸巻き学習を始めてください。

- 2** カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット(P32~33参照)しておきます。クラッチレバーをONにしてください。そして、電源の接続を確認してください。デジタル表示は図のようになります。(水深画面の状態です。)  
ENTER(決定)ボタン、MEMO(メモ)ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

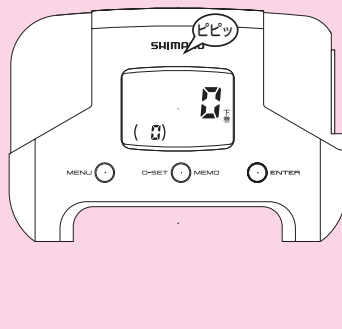
- 3** 糸巻き学習メニューが表示されます。  
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。  
MENU(メニュー)ボタン「下巻き学習 L2」を選択し、決定を押します。  
表示が図のように変わります。(学習方法の選択について、詳しくはP15をご参照ください。)



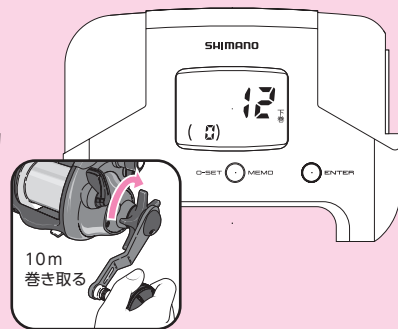
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 上図のようにハンドルで結び目まで巻き取ると、上図の画面になり、ENTER(決定)ボタンを長押しします。



- 5** 「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



- 6** 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて数値が変化します。

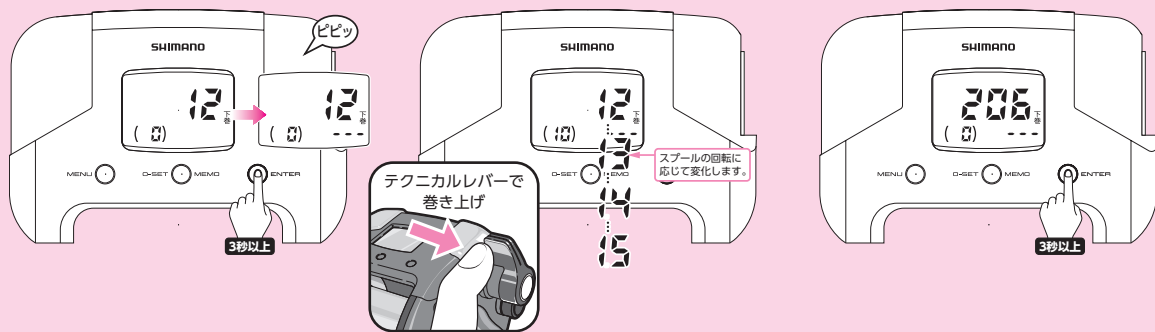
#### 10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。

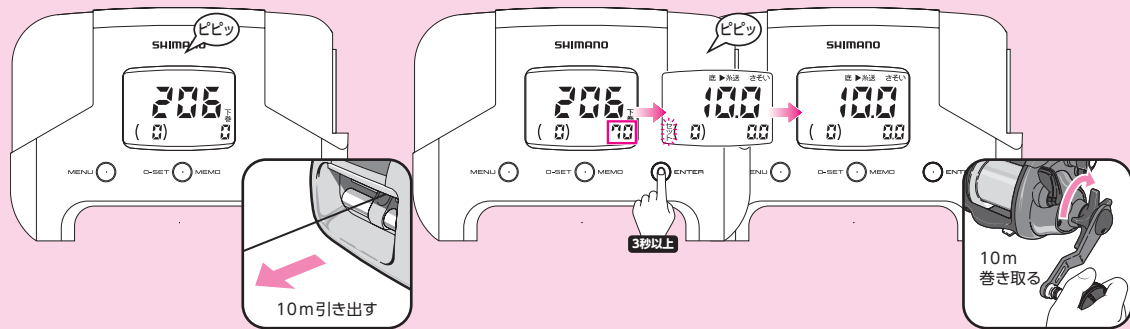


- 7** 終了 ENTER (決定) ボタンを3秒以上押してください。  
「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

- 8** テクニカルレバーで糸を巻いてください。  
スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。  
速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

- 9** 糸を完全に巻き終えたら学習を終了するため、ENTER (決定) ボタンを3秒以上押してください。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 10** 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。  
糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカラーの数で確認します。)

#### 10m引き出しのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカラー表示がある場合は、マーカラーを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカラー表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

- 11** スプールの回転数に比例した数字が画面右下に表示されます。(□部分)  
学習を終了するため、ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。

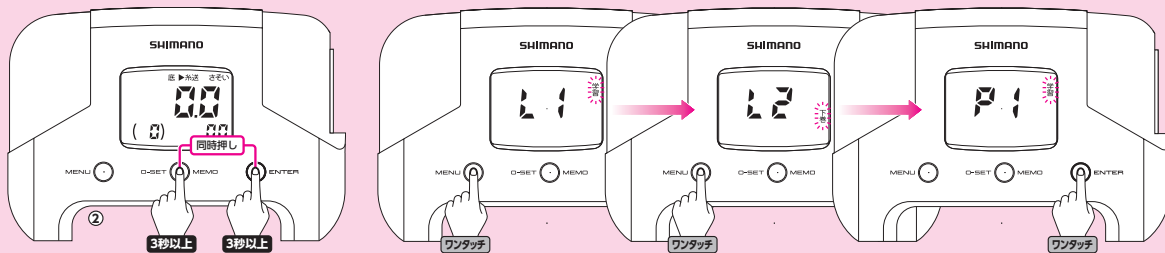
- 12** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。  
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)  
※誤差とは学習後1投目の誤差です。

- 13** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

## 学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

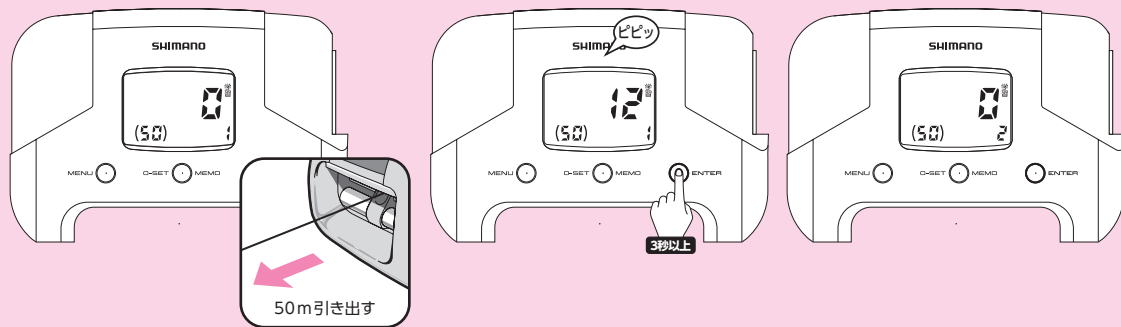
### 5 「引出学習をする場合」かつ「すでに糸巻きが完了している場合」 引出学習(P1)

糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。  
ご注意：引き出し学習を行う場合、巻いている糸が100m以上必要です。



- 1 カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット(P32～33参照)しておきます。  
ENTER (決定) ボタン、MEMO (メモ) ボタンを両方同時に3秒以上押し、学習モードに入り、MENU (メニュー) ボタンを2回押ししてください。「学習」(引出学習) が点滅し、表示は図のようになります。  
ENTER (決定) ボタンを押し、引出学習を決定します。  
「学習」が点灯に変わります。(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくはP15「学習方法の選択」をご参照ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 2** クラッチレバーをOFFにして、糸を正確に50m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)

#### 50m引き出しのご注意

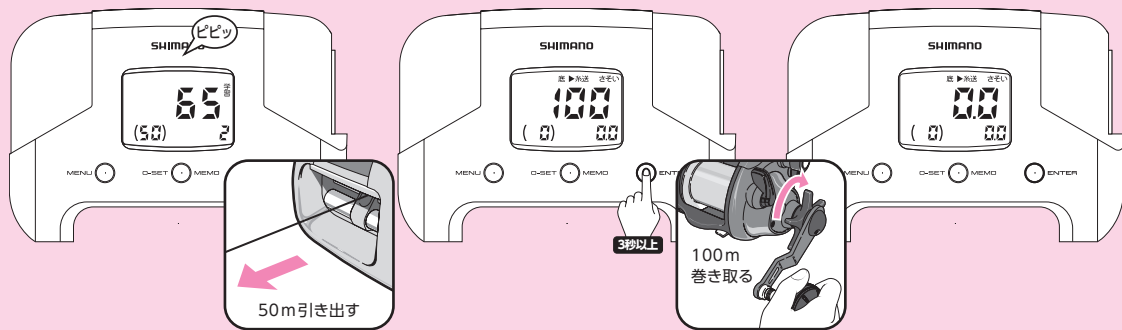
表示中の数字「50」=50mではありません。

- ラインにマーカー表示がある場合は、マーカーを見て50mの計測が必要です。
- ラインにマーカー表示がない場合は、メジャーなどで50mの計測が必要です。

- 3** 50m分の引き出しが完了しましたら、終了 **ENTER (決定)** ボタンを3秒以上押ししてください。「ビピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

次ページにつづく →

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



- 4** さらに糸を正確に50m分引き出します。  
(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)  
50m分引き出し完了後、終了ENTER(決定)ボタンを3秒以上押してください。  
「ビピッ」のアラームが鳴ります。

#### 50m引き出しのご注意

表示中の数字「50」=50mではありません。

- ラインにマーカー表示がある場合は、マーカーを見て50mの計測が必要です。
- ラインにマーカー表示がない場合は、メジャーなどで50mの計測が必要です。

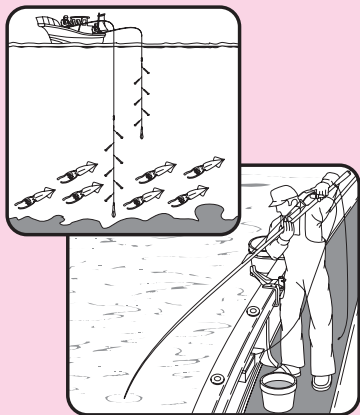
- 5** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。  
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)  
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

- 6** 引き出した100m分の糸を巻き取ってください。



## 応用 シカケを速く落とすテクニック。

- 一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めて、自分の指でスプールをサミングしてください。



- 竿先を下に向け、竿全体を立てることでガイドの抵抗を少なくすることができます。(上図)

この他にも次のようなテクニックがあります。



- 本製品には、自動糸送りの機能が付いています。シカケを投入して水深が船べり停止位置+5m以上になったら、自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくします。クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。

※自動糸送りが作動中はモーターが回転していますので、そのままクラッチをONにするると若干糸を巻き込みますが異常ではありません。

- クラッチを切り、テクニカルレバーをONにし、モーターを回転させると強制的に糸送り状態となり、よりシカケ落下を速めることができます。

### ご注意:

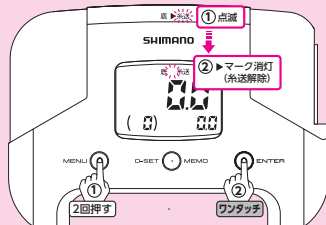
上記のような強制糸送りを行った際、モーターをOFFにせず、クラッチをONにするると糸を巻き込んでしまいます。必ずモーターをOFF(テクニカルレバーをOFF)にしてからクラッチをONにしてください。

## 自動糸送り機能を切り替える方法

自動糸送り機能を切り替えたい時は下記の操作できりかえてください。

1. モーターが停止した状態で、標準モードの時に、MENU(メニュー)ボタンを2回押しします。「糸送」が点滅になります。
2. ENTER(決定)ボタンを押すと▶マークが消灯し、自動糸送りが解除されます。もう一度作動させたいときは、同様の操作を行ってください。

MENU(メニュー)ボタンの操作について、詳しくはP10「MENU(メニュー)ボタンの操作」をご参照ください。



## 0(ゼロ)セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)



### 正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

※水深表示が10.1m以上で0セットをすると、高切れ補正となります。

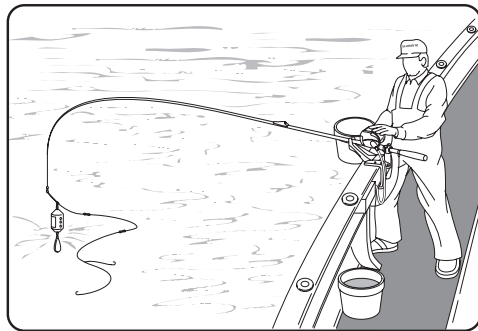
#### ⚠️ ご注意！ — 仕掛けを竿の穂先に巻き込むことを防止するために —

大物などを強いテンションで巻き上げた直後は0セットを実施しないようにしてください。

大物を掛けた時などに糸が伸びたりつぶれたりすることで、スプールに巻かれた糸の外径に変化が生じ船べり停止位置がずれることがあります。

その時に、0セットを行うと次の投入で前回の巻き上げ時のテンションとの差が大きくなることでカウンター表示がずれ、仕掛けを竿の穂先に巻き込み穂先を破損する可能性があります。

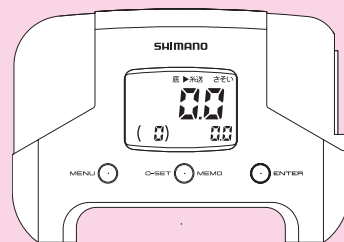
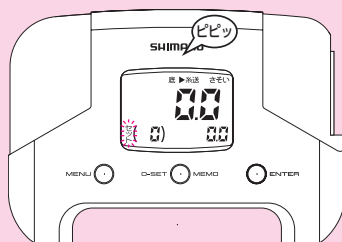
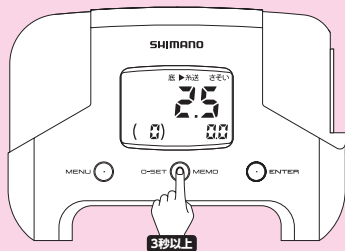
電動リールの特性上、この現象を完全に防ぐことはできませんので0セットを実施する際はご注意ください。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。



## 0セットを試みましょう。



- 1 シカケを水面に合わせ、0-SET(0セット) ボタンを3秒以上押してください。
- 2 「ビピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
- 3 これで0セットは完了です。

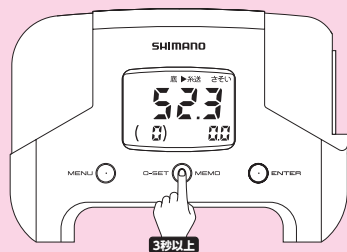
### ご注意!

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

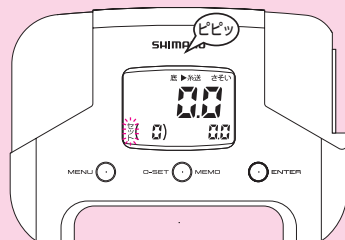
# 高切れの補正



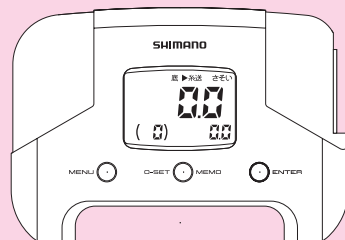
高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。



- 1** シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、O-SET (0 セット) ボタンを3秒以上押します。



- 2** 上図のように表示が変わります。



- 3** これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。



## ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での高切れ補正は、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

## S A-RB について



**シールドタイプ S A-RB で  
さらなるスプールフリーを実現!**

従来のA-RB (アンチラストベアリング) の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RB を適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。それによってヤリイカでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、完全フカセでよく言われるレベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。A-RB 処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

**S A-RB**

## 船ベリ自動停止について

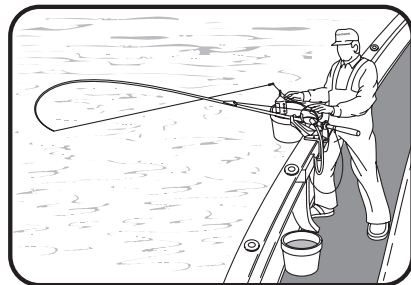


**電動巻き上げ停止後、  
竿を立てればシカケが  
手元にもどります。**

船ベリ停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

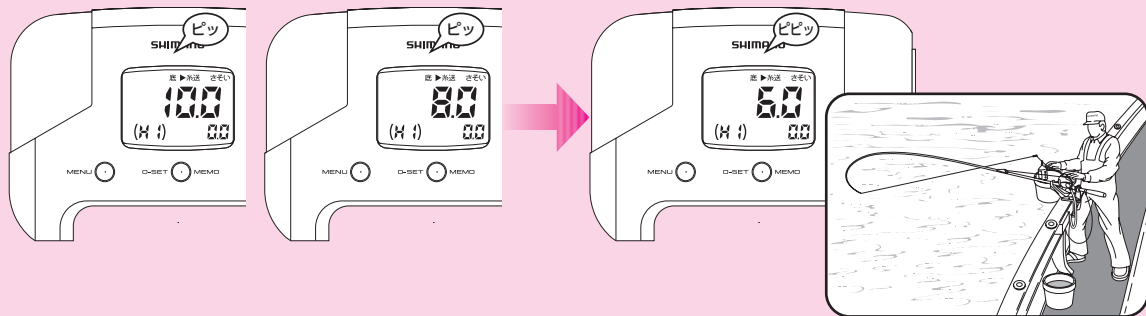
※電源を入れた初回投入時のみ6mで船ベリ停止します。2回目以降は5秒以上止めていた位置を次の船ベリ停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。

(この機能は1m~6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。)



## アラーム (船ベリ)

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



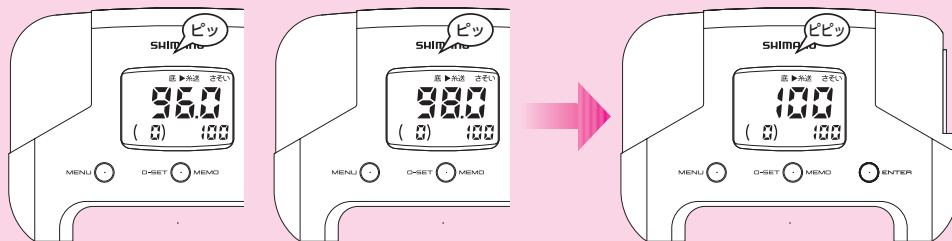
- 1** セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。  
図はテクニカルレバーのHIで巻き上げた場合の表示です。

- 2** 船ベリ自動停止位置(この場合は6.0m)で「ビッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。  
船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

# 棚アラーム



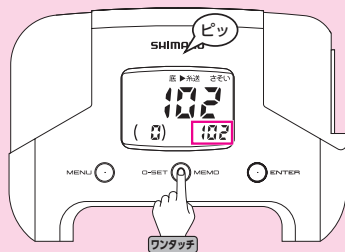
メモリーした水深の4m手前から「棚アラーム」でお知らせします。



- 1** シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
- 2** メモ水深(この場合は100m)で「ビビッ」のアラームが鳴ります。1回の上げ下ろしにつきアラームは1回のみです。いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

## 棚または底の水深をメモリーする方法

メモ水深は自動的にセットされます。手動でメモリーすることも可能です。



シカケをメモリーしたい水深(6.1m以上)に合わせ、MEMO(メモ)ボタンを押します。

上図ですと102mの水深がメモリーされます。(□部分)

底からモードの場合、同時に現在の水深が0.0mになります。

このセットは何回でも入れ換えが可能です。

## 2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



### 棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深(すなわち棚)にシカケを降ろすかということです。

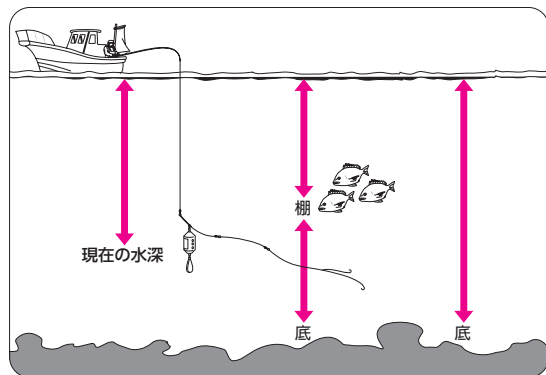
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。

通常、船長がこの棚を教えてください。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底す

なわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。

このリールは、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と底から棚をとるのに便利な「底からモード」の2つのモードを備えています。

その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

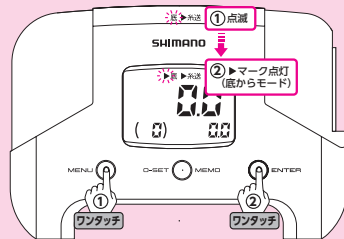


### モードを切り替えるには…

電源を入れたときは上からモードになっています。モードを変更したいときは下記の操作を行ってください。

1. モーターが停止した状態で、標準モードの時に、MENU(メニュー)ボタンを押します。「底」が点滅になります。
2. ENTER(決定)ボタンを押すと▶マークが点灯し、底からモードになります。上からモードに戻りたいときは、同様の操作を行ってください。

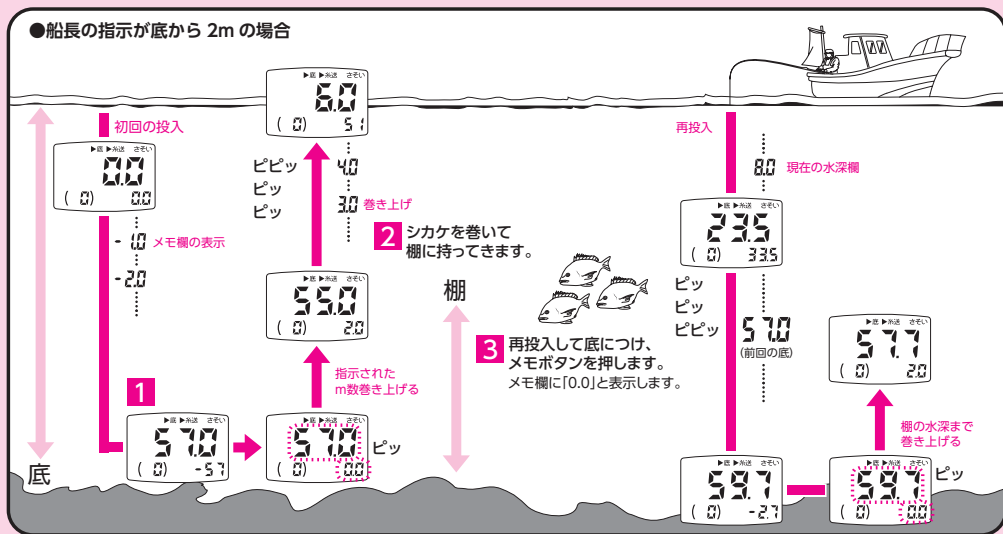
MENU(メニュー)ボタンの操作について、詳しくはP10「MENU(メニュー)ボタンの操作」をご参照ください。







# 底からモードの実釣編



- 1 シカケが底についたら、MEMO(メモ)ボタンを押します。メモ欄に「0.0」と表示します。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深が確認できます。

## 解説!

船長の指示が「底から何 m」といった場合、釣りはシカケをいったん底まで降ろして指示された m 数だけシカケを上げます。(通常この時にコマセを振ります。)

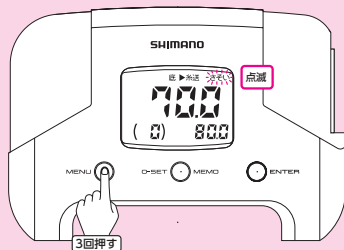
# さそい「3段シャクリ」の再現



さそい

名人の「3段シャクリ」をリールが再現してくれます。

一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。



- 1 モーターが停止した状態で、標準モードの時に、MENU(メニュー)ボタンを3回押します。

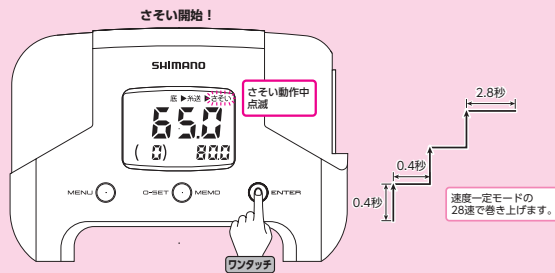
「さそい」が点滅になります。

注意:液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2 ENTER(決定)ボタンを押すと▶マークが点灯し、さそいがONになります。

さそいをOFFしたいときは、同様の操作を行ってください。(MENU(メニュー)ボタンの詳しい操作方法は、P10をご覧ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 3** 再度 ENTER (決定) ボタンを押すと「3段シャクリ」のさそいパターンをくり返し行います。  
さそい動作の途中停止、再スタートも ENTER (決定) ボタンを押します。  
さそい動作中は「さそい」表示が点滅します。

# お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、未永くご使用ください。

## 1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ずケーブルを抜きコネクターキャップを閉めて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

まずドラグをしっかり締め込んでください。

水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。

洗浄の方法を動画でご紹介しています。

↓こちらをご確認ください

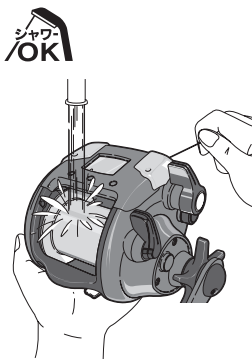


※水中に浸けて洗わないでください。

スプールと本体の間に水道水をかけながらクラッチを切って道糸を2~3m出します(図参照)これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。

ドラグを目一杯ゆるめ、影干してよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海中の不純物が付着している場合がありますので、必ず水道水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。



※ベアリングの塩垢みについて

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩垢み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩垢みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して水道水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

## 2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合)

※ケーブルを必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。)スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。
2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。



(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)

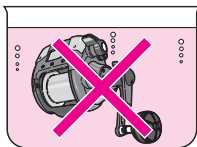
上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

### 3 ご使用上の注意

- 電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラッグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のグリス焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようご注意ください。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようにご注意ください。
- 偏光ガラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けを穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用ください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっていることをご確認の上、クラッチをONにしてください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルウィンドは運動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルウィンドがスプールと同期しない場合があります。
- 静電気により一時的に液晶の表示しない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。
- メカニカルブレーキノブを強く締めて使用した場合、ブレーキ機構部の摩耗による損傷が起き、ブレーキ力の低下につながる事があります。メカニカルブレーキは、バックラッシュを防止できる程度のブレーキ力に設定した状態で使用してください。

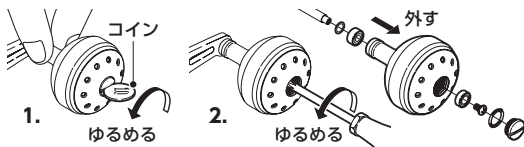
## 4 お手入れの方法

- 定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼ください。  
リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて弊社サービスへお預けください。
- 定期メンテナンスとして、半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。
- 保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。
- リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。
- リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、プレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
- ドラッグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラッグ力が低下することがあります。
- 高温、高湿の状態では長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。
- リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。



### ●ハンドルノブの取り外し方

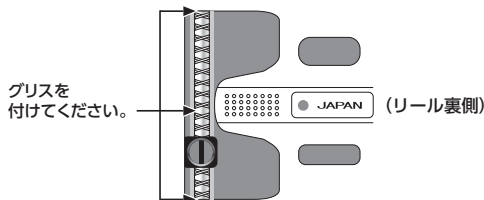
1. ノブを手で押さえながら、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。



- お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるようシマノリール専用グリス(下記)を使用してください。指定の箇所に付けていただくようお願いいたします。

シマノ純正リールグリススプレー (SP-023A)

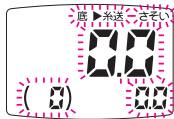
ウォームシャフトとウォームシャフト両側



## 5 セーフティ機能

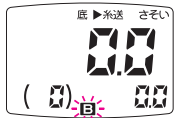
### ●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため1秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けると最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、右図のように全表示が点滅します。作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに5分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。) 点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。



### ●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V (リチウムイオンバッテリーは13.5V) 以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーマークが点灯します。バッテリーマークが点灯しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



### ●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」ページを参照していただき、修理に出してください。



※下記のErr表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

### ●電圧が高すぎる場合



DC24V以上の電圧がかかると上図のように表示されます。ご使用の電源が12V～16.8V仕様かどうかお確かめください。

### ●糸巻学習操作が不正確な場合



糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

# 仕様

## 実用巻上持久力

**10.0**kg

長時間耐久維持  
できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷を  
どんどん増やしていった際に、  
最終的に電動リールのブレー  
カーが作動したときの負荷を  
表示したものです。

## 最大巻上速度

**170**m/分

無負荷時の巻き上げ速度の  
値です。

## 最大ドラッグ力

**15.0**kg

シマノの船リールで表示して  
いる最大ドラッグ力は、人間が  
片手で締め込める力を30kg·  
cmとし、そのときのドラッグ力  
を最大ドラッグ力と表現してい  
ます。

## 実用巻上速度

$\frac{1\text{kg (負荷)}}{133\text{m/分}}$      $\frac{5\text{kg (負荷)}}{109\text{m/分}}$

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば4000番のリールならPE8  
号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を  
掛けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：○電源は1.3V○常温15～20℃(リチウム等高電圧  
の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。)

※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

品番	ギア比	自重 (g)	糸巻量(号-m) PE	糸巻量(号-m) フロロ	最大巻上長 (cm/ハンドル 1回転)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (ボール/ローラー)
4000	3.2	1245	5-600 6-500 8-300 10-270	5-610 6-530 7-360 10-290	68	75	2/0

### ●電源 (直流)

DC 1.2V (リチウムイオンバッテリー可)

### ●ご注意

PE5号未満を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意してください。



## 故障かな?と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの（+）（-）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P12
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P14～30
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P14～30
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P14～30
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P32～33
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P12

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクタ部分や、ケーブルのフニ口のサビと塩の結晶の付着による通電不具合が生じることがあります。サビや塩の結晶を落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P12
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいませようお願いいたします。

(1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

# 製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。  
手紙でのお問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

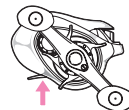
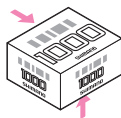
●修理に出されるときは、お買い上げの販売店に現品をお預け願います。その際には必ず、不具合が生じたそのままの状態の販売店へお持ちいただき、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが動かない）お知らせください。また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、ダイレクト修理サービス([https://www.shimanofishingservice.jp/repair/direct\\_guide.php](https://www.shimanofishingservice.jp/repair/direct_guide.php))をご利用ください。修理品は部品代のほか工賃を頂きますのでご了承ください。商品の故障などによって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください。製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。）

例／製品名 : PLAYS 4000  
商品コード : 047465  
製品コード : 5RG861A20  
部品番号 : 12  
部品名 : ハンドル組

●弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置  
パッケージ底面部もしくは側面部に製品コード及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



## 株式会社シマノ全国サービスネット

### 株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1

### 株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17

### 株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋2-6-21

### 株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

### 株式会社シマノ 中四国営業所

〒700-0941 岡山県岡山市南区青江6-6-18

### 株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町4-6

株式会社シマノ 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル ☎ 0120-861130 (ハローイイサオ) をご利用ください。

受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00 (土・日・祝日除く)

■シマノホームページ アドレスは [www.shimano.com](http://www.shimano.com) です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。



此标记表示环保使用期限，其遵循以下标准：

SJ/T 11364-2014 电子电气产品有害物质限制使用标识要求

SJ/Z 11388-2009 电子信息产品环保使用期限通则

部件名称 (Parts name)	有害物质 (Hazardous substances)					
	铅 Pb	汞 Hg	镉 Cd	六价铬 Cr VI	多溴联苯 PBB	多溴二苯醚 PBDE
印刷电路板 (PCBA)	×	○	×	○	○	○
电线 (cable)	×	○	○	○	○	○
外壳 (case)	×	○	○	○	○	○
金属部件 (metal parts)	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364-2014 的规定编制。

○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。

×：表明该有害物质至少在部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

然而，具有 x 的所有部件都符合 EU RoHS 指令 2011/65/EU 的要求。

All parts are compliant with European RoHS (2011/65/EU) requirements.

Toutes les pièces sont conformes aux exigences de la Directive européenne RoHS (2011/65/UE)





# SHIMANO